

第644回

九州朝日放送番組審議会議事録

—— 2022年6月度 ——

◇ 開催日

2022年6月20日(月)

◇ 議題

<テレビ番組>

「たたかうJK映画監督

～日本一を目指した“負け犬”と仲間たち～」

放送日時：5月29(日) 13:55～14:55放送

◇ その他

九州朝日放送株式会社

第644回 番組審議会議事録

1. 開催年月日 2022年6月20日(月)午後3時25分～4時50分

2. 開催場所 九州朝日放送 本社7階A会議室

3. 委員の出席

委員総数 8名

出席委員数 7名

委員長 赤木 由美

副委員長 石橋 和幸

委員 上野 恵梨奈

委員 中山 裕二

委員 石井 靖子

委員 藤村 まこと

委員 丸石 伸一

欠席委員数 1名 (レポート提出)

委員 田川 真司

放送事業者側出席者名

代表取締役社長 和 氣 靖

執行役員 岩 村 智

報道情報局長 柴 田 高 宏

総合編成局長 大 保 一

報道情報局 報道情報センター長 西 村 香 織

報道情報局 報道情報センター プロデューサー 前 田 輔

報道情報局 報道情報センター ディレクター 東 大 貴

番組審議会事務局長兼視聴者・広報室長 園 田 哲 也

番組審議会事務局 (視聴者・広報室) 松 永 俊 郎

4. 議題

- (1) テレビ番組 「たたかうJK映画監督～日本一を目指した“負け犬”と仲間たち～」
放送日時：5月29（日）13：55～14：55放送
- (2) 6月・7月 ラジオ・テレビ番組編成状況の報告
- (3) 5月 視聴者・聴取者応答状況の報告
- (4) その他

5. 議事の概要

委員の意見（概要）

委員からは、

- 高校生の西山さんが仲間と映画制作に挑み、劇場上映を果たし、コンクールで日本一になるという夢をかなえる「サクセスストーリー」を当人たちが制作したメイキング映像も交えて伝える内容は感動的だった。映画そのものも見てみたくなる番組だった。
- 西山さんが自ら抱える起立性調節障害という病気について知って欲しいと仲間を集め、映画を撮り、資金を集めるなどした行動力はすごい。若いパワーに圧倒された。
- 原作、脚本、監督、主演、キャスト、メイクに至るまで26人の女子高校生（JK）が担うというというプロ顔負けの素晴らしい取り組みだった。高校生ながら映画撮影には原作本が必要だと話し書いてしまう能力の高さや行動力には驚かされた。
- 起立性調節障害という病気のことを知る機会になった。同じ病気で苦しむ人たちに勇気を与えたい、理解を促したという点で番組の果たした意義は大きかった。
- SNSやクラウドファンディングなど若者ならではのツールを駆使して夢を実現させる様子からは将来世代の可能性を強く感じた。高校生たちのやる気を見せつけられた。
- 西山さんの「同じ病気の人を励ますのではなく寄り添う映画を作りたいかった」という言葉は印象的だった。女子高生らしく「やればできる、YDK」の掛け声の場面もリアルだった。こうした一つひとつの場面を丁寧に伝える番組の構成に好感が持てた。
- 病気で苦しむ子どもの生きづらさが高校生たちのリアルな声から伝わった。西山さん役の高校生に対し先生が「はいはい、この病気ね」という場面では、自分も教育者の立場にある者として思わず自らの行動を振り返った。
- 高校生たちの悩みながらも妥協せず、夢をかなえるひたむきさが伝わった。人としてどう生きるか、努力とはどういうことかを高校生たちの挑戦から教えられた。人にフォーカスし思いや生き様を伝えるKBCのドキュメンタリー番組にはいつも共感を覚える。
などの評価を頂きました。

一方、気になる点や望むこととして、

- 番組制作サイドが伝えたいことを絞りもっと深掘りすれば、ドキュメンタリー番組としての質がさらに高まったのではないか。どこかサクセスストーリーを網羅的に伝えているという印象を受けた。

- 起立性調節障害という病気について深掘りと詳しい説明が欲しかった。途中で西山さんの体調が悪くなる場面もあったが病気の深刻さはあまり伝わらなかった。
- 西山さんの活躍に焦点を当てすぎ、一番知って欲しいと思う病気について十分に伝えきれていない気がした。視聴者が病気についてもっと理解しなければ、西山さんのことを本当の意味で理解できないと思った。
- 西山さんが進学も就職もしないことは意外に感じた。今の若者の人生観や夢へのアプローチの仕方をより深く伝えても良かったのではないか。
- 西山さんたちを取り巻く親や家族、先生、メンバー以外の友だちへの取材も欲しかった。
- 映画のテレビ放映は考えていないのか。理解を広げるため番組をネット配信して欲しい。
などの批評や提言を頂きました。

これらに対して、担当者からは、

- 本作は「アサデス。KBC」の特集コーナーから派生したもの。当初は福岡で映画を制作する高校生たちの様子を伝えることが目的だった。「アサデス。」で紹介するうちに劇場公開を予定していることや「映画甲子園」に出品する予定があることなどを知り、追加取材を進め1時間のドキュメンタリー番組を制作した。
- 福岡で映画を制作する高校生の存在を知り取材を開始したのは映画撮影のクランクアップ時点。KBCではそれ以降の様子を密着して取材し撮影した。今回のドキュメンタリー番組は高校生たちが制作した映画とメイキングの映像を加えて構成した。
- 「アサデス。」で起立性調節障害について深く触れなかったのは、みんなが見やすい構成にしたいという意図があったから。「病気を抱える高校生が映画を制作した」というよりも、福岡で映画を制作している高校生だが、実は病気を抱えているという紹介にしたかった。今回のドキュメンタリー番組においても高校生たちの頑張りに焦点を当てた。
- 「病気について深掘りが欲しかった」というご意見もあったが、高校生たちの熱量や行動力、パワーを見せることで視聴者に元気を与えたかった。SNSなど現代の高校生なりの工夫する様子を伝えた。主人公はあくまでも大人に頼らず頑張る高校生だと考えた。
- 高校生たちが制作した映画は今月初めに茅ヶ崎映画祭で上映された。今後は海外でも上映が予定されている。福岡でもどこかで上映できないかと話しているが、(監督の西山さんは)病気を抱えているだけに無理は言えない状況だ。
- ドキュメンタリーは日々の取材の延長線上にある。本作も丁寧に密着することにより、大成功を収めた高校生たちの姿を捉えることができた。これからも一つひとつの取材に丁寧に向き合っていきたいと考えている。

などの説明をしました。